

時をこえて



清水建設株式会社
常務執行役員
技術研究所長
石川 裕

2016年7月に国立西洋美術館がル・コルビュジエの建築作品の一つとして世界遺産登録されました。国立西洋美術館は、1959年の本館建設と1998年の国内初の免震レトロフィット改修において、当社も施工者として新たな建設技術に挑戦させていただいた建物です。当社との関わり合いが深い作品が世界遺産に登録されたことは、喜ばしい限りです。

今回お届けする研究報告では、「歴史的建造物」を小特集として取り上げました。はじめに東京理科大学の山名善之教授から「世界遺産としてのル・コルビュジエの建築作品群」と題する寄稿文を頂戴し、学術的にサポートされてきたお立場から今回の世界遺産登録の意義を報告していただきました。続いて、歴史的建造物に取り組んでいる研究員より、近代建築の施工技術や保存・改修事例など4編の関連論文を掲載しております。

歴史的建造物を研究対象としているのは当技術研究所の特徴の一つです。建物の価値にはいろいろな見方がありますが、近代建築物に限らず「歴史」から学ぶ点は多くあります。例えば、五重塔の耐震性が超高層建物の柔構造に結び付いたのは有名なエピソードとして知られています。「美しさ」とともに「良いものは残る」という機能面での考察も重要と考えられます。

一般論文としては、地震・構造・材料・地盤・トンネルなどの17編にわたる研究開発成果を掲載しています。とりわけ、2006年に技術研究所内に整備したビオトープについて10年の歳月での動植物の観測記録をまとめました。また、人工知能(AI)を活用した画像分析による社会インフラ維持管理手法の試行や、スマートフォンと屋内位置情報を使用した音声経路案内の実証実験など、「これからの」技術についても紹介しています。

多様な時空間の交わりが醸し出す技術は建築や街にふくらみをもたらします。今後ともコーポレートメッセージ(英文)である「Today's Work, Tomorrow's Heritage」に資する技術を研究開発し、社会に提供していきたいと考えています。引き続きのご指導をよろしくごお願い申し上げます。